
時の約束

陸後

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時の約束

【Nコード】

N 6 7 3 6 C

【作者名】

陸後

【あらすじ】

山があり、海があり、自然に囲まれた都会である珠之波市つゆなみに主人公とその妹が引っ越してきた。2人は記憶喪失者であり、姉は手元にあったペンダントを誰に貰ったものなのかを確かめたい為に、色々な街を周っていたのであった。そんな姉についてくる妹も密かに気になっていることがあって……2人は自分たちの過去がとても残酷なものとも知らずに、街へ足を向ける……

序章：始まりの合図

幾度になく流れた血
誰も望まなかった結末

…燃え盛る 夢のような一夜……

（どうして君はまた先に居なくなる？）

（何故貴方は必死に私の名前を叫び続ける？）

（また寂しさだけが残るのはもう嫌だ）

（思い出したときにすぐ消えるそんな儚い思い出も嫌…）

でもまた何度でも巡り会ってしまう……

見つめたいだけなのに

抱きしめたいだけなのに

何故許されない……？

…もう一度……

…たった一度だけでも…

…許されるなら……

「もう 結末をつけよう」

序章：始まりの合図

ガタン…ゴトン……

電車の揺れが車内に響く…アナウンスから、行き先が放送された。

『ザー……次は、葎衛…葎衛…降り口右側

』

「お姉ちゃん…あとどれくらい？」

アナウンサーの声を遮る様に、

肩辺りまで伸びた橙色の髪の少女…妹の真名は、足を上下に動かしながら説いた。

「えっ…と…次……ね。」

車内の行き先表を見て問いに答える、少女の姉である私。

朝早くから出てから、ずっと乗りっぱなしのせいで少し腰が痛かった。

「はあ…やつとかあ…楽しみだね。」

わざとらしく息をはいて、真名は窓の外に目を向けた。

朝は田舎で緑が多かったところも、徐々に高い建物などが見え始めていた。

少しずつ見え始めてきた都会の様子に緊張を覚える。

「…早く姉さんの“アレ”………秘密が解ければいいね。」

突如そう零し、何処か口調が静かな真名に少し違和感を覚えた。

驚いたが、表に出さず少し瞬きして頷き、

「…そうね……」

曖昧な返事をして、ゆっくり腰を屈めた。

すると、“アレ”は『リン』と静かな音を響かせて、首元の服から宙に揺れる。

「ねえ、これから行く街ってどういう所なの？」

不意に真名は明るい口調で、私に笑顔を向けた。

「……えっと、とても綺麗な街らしいけれど……」

不意をつかれたせいか作り笑いを浮かべると、気を遣うように真名は明るく笑みを浮かべた。

「へえ……あ、まず着いたら、公園行きたいなあ！あの有名な公園だよね！？早く出られるように用意しようっと！」

鼻歌交じりで後ろの荷物に手をかける。家を出る前に、真名が鞆に入れたのはハンカチとティッシュ……それに、MDカセットだ。

「真名……いくら他に乘っている人が居ないと言っても……少し静かにしようね？」

朝に乗っていた、大勢の乗客は一人残らず居なかった。「別にいいじゃん」居ないんだしい。」と頬を膨らませて、ちゃんと座りなおした。

先ほどの行動がまるで嘘のような……小さな子供の様だった。

「それに……お姉ちゃんが昨日は『新幹線で行くから、ゆっくり寝ていいよ』って言ったのに、今朝になってから『早く起きて、電車で行くことになったから。』って叩き起こしたんじゃない」

さらに不機嫌になる真名。今朝になってから今日通る新幹線に【珠^{ゆのは}之波行き】がなかったのに気付いたので、慌てて電車を選んだのだ。
った。

そのために、真名を必死で叩き起こしたのだ。
けれど、叩き起こしたといっても、引つ叩いて起こしたわけではない。

まあ…“多少”は手を使っただが…

「お姉ちゃん？」

不意に真名から呼ばれて、我に返る。

「あ…何？」

「もうちゃんと起きてる？昨日、遅くまで読書したりとか…」
そう言いながら、目の前で手を軽く振る。

「大丈夫よ。ちょっとボーっとしちゃっただけだもの」

微笑んで見せると、「ホントに？」と疑った眼差しで見つめられた。
「本当よ」と言つと、「無理しないでよ？」と言つてそれ以上聞かれなかった。

私は、そつと電車の天井を仰いだ。

これからいく街で、きっと何かが分かる気がする。

それが何かは分からない。

けれど、必ず…

「アナタヲ ミツケテミセル」

『ザー…次は、珠之波市…珠之波市…降り口左側
「さ、行こうか。」

』

私は自分のバックを背中に背負った。

「うん！」

真名も元気に立ち、並んで街に到着した。

物語の始まりは此処から

…

序章：始まりの合図（後書き）

前に一度書いていましたが、続かない為に勝手に消してしまいました。

今回は、前作より編集をして出しております。
どうぞ、最後まで楽しんでみてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6736c/>

時の約束

2010年10月20日19時25分発行